

経営比較分析表（平成28年度決算）

山形県 米沢市

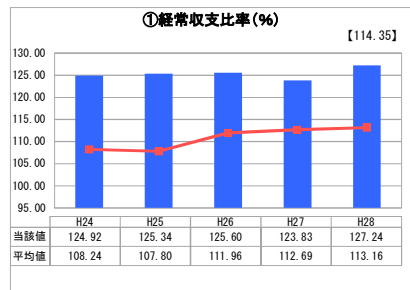
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	85.93	99.25	3,445	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
82,843	548.51	151.03
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
81,545	90.13	904.75

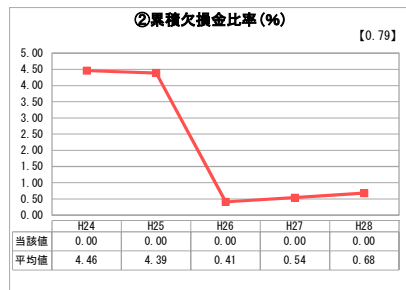
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成28年度全国平均

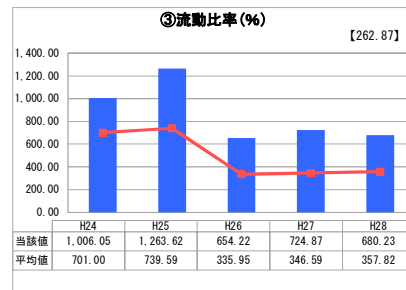
1. 経営の健全性・効率性



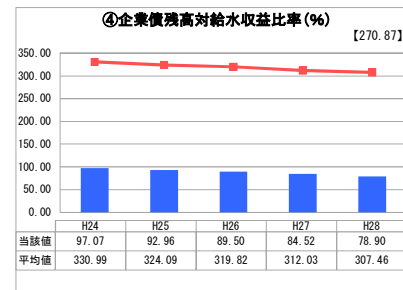
「経常損益」



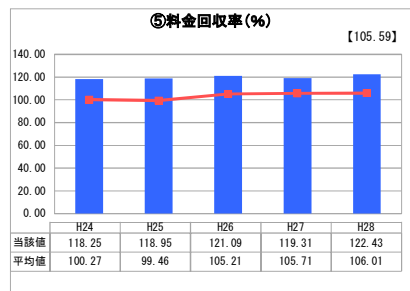
「累積欠損」



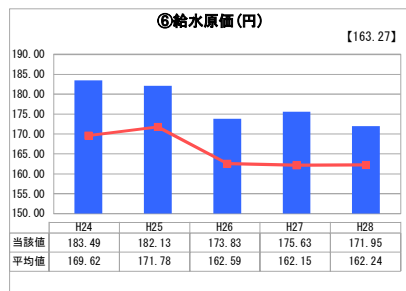
「支払能力」



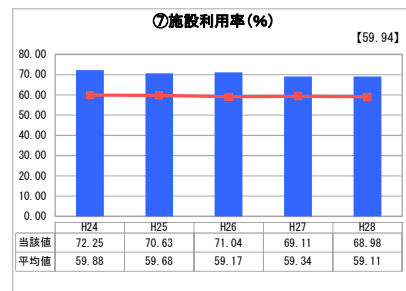
「債務残高」



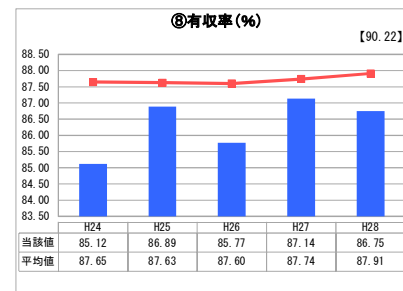
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

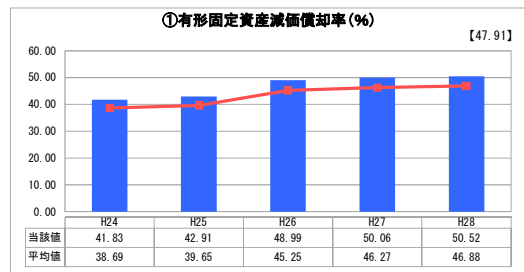


「施設の効率性」

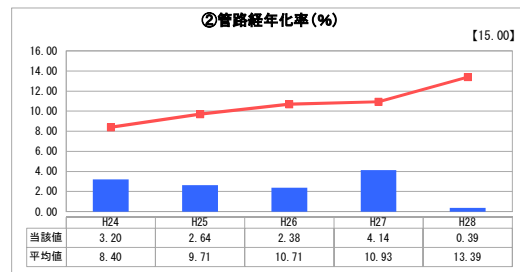


「供給した配水量の効率性」

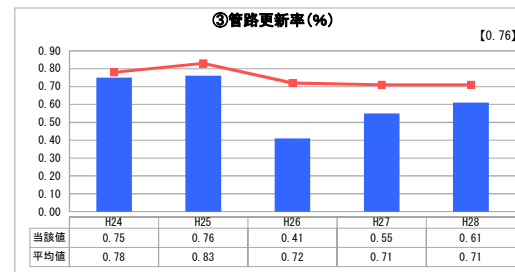
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率 (①)、料金回収率 (⑤) は、類似団体と比較して高く、費用が適切な収益によって賄われている状況にあるといえる。また、短期債務に対する支払能力を表す指標である流動比率 (③) も類似団体と比較して高い水準を保っている。このことから、現在のところ健全な経営状態であるといえるが、今後も効率的な経営を継続し、将来の更新投資に充てる財源の確保に努める。一方、施設利用率 (⑦) は類似団体と比較して高いものの、有収率 (⑧) は低く、給水原価 (⑥) も高くなっており、施設の稼働状況が有効に収益に反映されているとは言えず、計画に基づく適切な管路の更新や、定期的な漏水調査等を行うことにより、有収率の向上を図っていく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率 (①) は、類似団体平均値とほぼ同じ水準にあるが、毎年上昇しており、老朽化した施設・設備を計画的に更新していく必要がある。管路経年率 (②) は低い水準にあるものの、管路更新率 (③) が類似団体と比較して低くなっている。今後、高度経済成長期に急速に整備された管路が一斉に老朽化し、管路経年率が大幅に上昇することが予想されるため、アセットマネジメントの活用等により、計画的かつ効率的な施設・設備の更新を行っていく必要がある。

全体総括

経常収支比率、流動比率、料金回収率等が、類似団体と比較して高いことから、現状では経営の健全性は保たれているといえる。しかし、今後は人口減少等による給水収益の減少が見込まれる中でも、現有資産の適切な維持管理や更新を行っていく必要があるため、より一層効率的で持続可能な経営基盤の強化を行うとともに、有収率の向上を図る。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。